



# 小島友実の あの馬の **STORY**

A black and white photograph of a horse and jockey standing on a racetrack. The jockey is holding a large white placard with the number 4 and the Japanese text 'アブソラビント' (Absolut). In the background, there are mountains and a tall metal tower.

2023年9月10日・阪神 初勝利のウイナーズサークル

2戦目は9月10日の阪神競馬場で行われたダート1800メートル戦。この「戦四」でもうわちりし初勝利をマークしました。「好スタートからハナに立ち、スローの逃げで途中つかれたものの、後続が来たりまた脚を伸ばして、リストは38秒8で、もとめて完勝。それも直線では内ラチを物見するなく、余裕のある勝ち方でした。

「お母さんが初入厩した頃と出でぬじ、体つきや動きはしきりしていの印象でした。初戦に向けて、調教時計が出ていたから、一番人気になりましたね。」  
その「デビ」一戦は8月19日に小倉競馬場で行われたターミナル戦。しかし、8枠16番という大外が影響し、結果は3着でした。

こうしたソーシャルプロジェクトは昨年7月に栗東トレセンへ初入厩。ゲート試験は一度目の挑戦で合格し、「入厩当初から動きが良かつたですね」と西園調教師は語ります。

は、かつてグリーンアーモンド所属し、交流重賞を3勝したアンダウイーンに続き、初任であるアンデスペインも管理して、いる西園正都調教師。

「初めて見た時の第一印象が『』でした。  
さすがに馬ですよ。アーッ」と思いました。  
五歳の時と比べると、馬格が少し  
大きくなりました。

た。将来性を感じましたね。期待通りの勝ち方をしてくれたと思ってます」  
その後、因縁盤上への「アーマー

教師が一番評価している点も伺いました。

「術後」に化膿するなど、頓挫があったのです。ですが、これほどの手術の術後においてはなあくつぱつとして、それもへつぱつとして、一貫のアームchairの上で順調に調整を重ねられておられますよ。大事に至らなくて安心ですね。  
お母さんの「パンチングアーム」としては、パンチングアームに出資して貯金しておられた方がいいじゃないかと思つてます。私が西園寺講師によると、母娘の違いや似てたる部分があるかないかを聞いてみました。  
「母が栗毛で娘は鹿毛だけじ、顔つきはお母さんとのアシテटで、イーフに似てたんですね。アームペニンフットの方がキツいとした方が、顔をしてしまいますね。お母さんは普段は大人しい馬でしたが、気持が強いため、

能力發揮につながるおかげだ。これは本当に大きな武器にならん感じあるわ」「なんでもアドバイスを担当してるのは、たぶんトペイントの長い時間でじっくりと駒崎太一調教師をじっくり見ていたからだ。同じ方があなた担当してやれることは心強いですね。

がありました。アーノルド・ペリーとも馬鹿房では大人として可愛い感じなどと、勝負に関しては気が強い部分があり、母譲りの根性を持つてます」

では、馬体はどうでしたか。

回り大きくなると、もうヒターも適性が高まつてしまふと思ひます。飼葉もしつかり食べてもらおう。母は最初の頃は小柄だからものだんだん大きくなつてもらおう。

たからね。娘にはやの成長を期待して  
たのです」

(電話取材 : 2024年2月7日)

現段階でのポートフォリオを構成する上、期待通りの結果となつたのである。

競馬キャスター＆ライター。現在、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」に出演中。「週刊競馬ブック」や「JRA-VANスマートアソビ」にて連載を持つ。ライフワークは馬場取材で、2015年「馬場のすべて教えます（主婦の友社刊）」を出版。JRAの競馬場の歴史。最近は地方競馬場の馬場取材を行っていろ。